

浜松情報局

遠州版



〈広告〉

広告紙面のお問い合わせ

中日新聞専属代理店
株式会社 折込広告社
053-401-2153

輝き夢追人

浜北さくら台病院 リハビリテーション科科長

柴 宣代人さん

患者さんの主体性を支え 療法士38人の意欲を引き出す

茶畑とみかん畑に囲まれたのどかな場所にある「浜北さくら台病院」。ここは急性期病院での治療を終え引き続き療養が必要な人の在宅復帰を目指し、安心安全な医療を提供している。また長年、高齢者医療に取り組んできた実績もあり認知症治療のトータルサポートにおいても信頼が厚い。医療、看護、介護、リハビリテーション、福祉のスタッフがチームを



学生時代にバレーボールでのケガで理学療法士と出会ったことがこの道を目指すきっかけ。「今は若いスタッフが日々成長している姿に励まされ、自分のやりがいにつながっています」

科には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がいます。リハビリは、急性期、回復期、生活期の3段階に分けられ、当院では、回復期、生活期のリハビリテーションのほか、認知症リハビリテーション、在宅の方を対象とした通所リハビリ、訪問リハビリを実施しています。



総勢38名の療法士。20代がもっとも多く、明るく活気あふれる職場

「患者さんご自身がこんな生活を送りたい。この作業が好き」という主体性を持つてリハビリに参加することが重要と

運動療法を通して運動機能の回復を図る理学療法、生活していくために必要な能力の再獲得を目指す作業療法、聴覚や言語機能の回復を促す言語療法といった専門的な治療が進められるなか、患者さんの主体性を引き出せるよう、機能訓練以外にもレクリエーションや創作活動などを積極的に取り組んで

「患者さんご自身がこんな生活を送りたい。この作業が好き」という主体性を持つてリハビリに参加することが重要と

「若い療法士の何倍何十倍も人生経験のある方々ですから、お一人お一人の人格、価値観を尊重することが何より大事です。患者さんから学ぶことも多く、療法士はそれを肌で感じているはず。私はリハビリテーション科を管理する立場として、38人みんながやりがいを持って働けるよう、他職種ともコミュニケーションを取っていききたいと思っています」

「患者さんご自身がこんな生活を送りたい。この作業が好き」という主体性を持つてリハビリに参加することが重要と

療法士が個々の経験や価値観で患者さんとコミュニケーションを取るなかで、どうしても指導的な立場になってしまうこともある。「若い療法士の何倍何十倍も人生経験のある方々ですから、お一人お一人の人格、価値観を尊重することが何より大事です。患者さんから学ぶことも多く、療法士はそれを肌で感じているはず。私はリハビリテーション科を管理する立場として、38人みんながやりがいを持って働けるよう、他職種ともコミュニケーションを取っていききたいと思っています」



病棟の横にある畑で作業する利用者。草むしりも積極的に行っている